

# 日 体 大 骨 體 魂

日本体育大学  
東京都同窓会会報

第25号

平成31年3月31日発行  
発行者 東京都同窓会長

高田 幸一

## 「日体魂」

理事長

松浪 健四郎

晩秋を飾る深沢校舎で開催された「日体フェスティバル」の喧騒さと賑々しさの中に身を置けば、学生たちの後輩たちの活力に圧倒される。このヒトコマは、歴史と伝統の凝縮に他ならない。「魂」と刻まれた昭和三十三年建立の慰霊碑に、そとと花束を供えて下さる老紳士の姿に接すると、平和を希求する日体大のミッションに心を震わせるしかない。

「学問の府」「研究の府」としての大学、深遠な真理を探究する大学として、日体大はその任を果たしてきたの

だろうか。昨年の文科省の科研費を請求した一一五〇研究機関（大学、各研究所等）の中で、日体大は体育・スポーツ科学部門で八位、総合で二八三位、私立大学部門では一〇五位であった。保健医療学部設置は、日体大を変えた。多くの優秀なドクターの存在は、文字どおり「医療も日体大のフィールドだ」を物語る。

五つ目の新学部、「スポーツマネジメント学部」も堅調な学生募集、日体大のブランドを誇示してくれた。現在、学生数は七千二百人、大規模大学（八千人）まであと一歩とせまった。ただ大きくする拡大路線だけを目指している訳ではない。幅広い分野で活躍する日体魂を身体に染み込ませた人材を輩出し、社

会貢献に取組まねばならない。教員養成の一枚看板だけでは、大学の体力はもたないのだ。スケールメリットの大きさは、すべてに影響を及ぼす。

今年度入試から全学部がセンター試験に加入する。で、全受験者数は一人を目標したい。毎年、日体大にも極めて優秀な人材が入学している。かれらに失望感を与えないようにプログラムを準備し、上級国家公務員試験の合格者を出したり、研究者を養成したいと考える。大学院も三研究科、保健医療学研究科も本邦初の博士課程を申請中である。「身体にまつわ

る文化と科学の総合大学」と、牛歩ではあるが、少子化に尻込みすることなく挑戦を続けて行く。時代を読み、社会の拡がりを読み、日体大は攻勢を続ける。

先輩方の協力を得て、現役学生の公立教員の合格者が飛躍的に増加中である。御礼を申し上げたい。推薦高校の見直し、入試の多様性は日体

大のレベルを押し上げてくれたようだ。さらに向上させるための策を講じ、「学問の府」としての存在感を高めなければならぬ。国立大を教員合格者数で凌駕した日体大は、慢心することなく、先輩の皆さんの御指導と御協力をお願いしたいと考える。実は、本学の特徴は、そこに横たわり、新興勢力の追従を許さない。同窓会のさらなる結束を期待する。

いよいよ二〇二〇年を来年迎え、今春には新年号となる。オリンピック・パラリンピック対策は、一応順調であるが、一九六四年時のごとく大学ぐるみでの参加、協力は組織委員会から依頼されておらず、大会運営を不安視する者である。日体大パワーを必要としないらしいが、いつでも対応できるように準備はしておく。七〇人のオリンピックアン、一〇個の金メダル獲得、この旗は下ろさず実現させたいと考える。

スポーツ庁は、大学スポーツのあり方をめぐり、米国の

NCAAをモデルに組織化やルールづくりを進める。UNIVAS（ユニバス）と呼称し、日体大は先頭に立って協力してきた。大学スポーツの振興は人づくりを目的とする大学にとって重要であり、そのあり方について日体大はイニシアチブを発揮してきた。また、当初より補助金を得てきたチャーターメンバー大学であり、モデルとなった。それは早い時代に体育局を設置した先見性にある。

新法により東京特別二十三区内の大学は、身動きできなくなり、横浜・健志台校舎の再開発が焦眉の急を迎えている。約三〇〇億円の借金が必要である。慎重に事を運びたい。現在のように学生募集が順調であるならば恐々とする借金ではないが、どうせ金を使うのなら、高齢化、移民推進時代の社会を分析し、不可欠な新学部を二、三新設したいという希望もある。時代は動いているのだ。

「平成三十一年度  
同窓会活動に向けて」

都同窓会会長  
高田 幸一

桜花の候、ますますご清栄のことと存じます。平素より東京都同窓会の皆様におかれましては、ご支援ご協力を賜り心より感謝しております。

さて、大学の発展とともに東京都同窓会活動の主な目的は、(一) 会員相互の親睦(二) 母校の発展に寄与することを掲げています。今年度より東京都同窓会活動の今までの人的財産と知的財産を活かし、次世代に生かすため新たな企画・事業を行います。

平成史として東京都同窓会の歴史をひとつにまとめの編集を始めました。昨年度より、①教員名簿の整理、②企業で活動している同窓

の情報収集と整理を行っています。今後、原稿のフォーマムを決め皆様に依頼をしたいと考えています。よろしくご協力お願いいたします。

さらに、学生への支援を挙げています。①教職を目指す学生に対し教育実習の指導、②教員採用試験に向けての講座の支援、③就職活動に対しての研修会開催等があります。

特に教育実習指導や教員採用試験対策等については、従来の中学校・高等学校教員免許に加え、小学校教員免許を志望する学生へも指導研修等を実施しています。第一次対策は、東京都同窓会が主となり、第二次対策は、大学の学生支援センターが主となっています。

東京都同窓会としては、「日体魂」を持つ教員を目指す学生の指導に協力支援しています。

なお、今後も進路の多様化に対応すべく、情報提供

の一環として昨年からホームページを立ち上げています。学生及び同窓生、保護者会へ定期的に事業や活動の情報の提供をしています。また、広報活動において皆様から様々な情報を頂き掲示していくつもりです。今後とも東京都同窓会活動にご理解ご協力をお願い致します。



「健志台グラウンド」  
「エール」  
「バル」  
「スリット」  
「と」  
「に」

平成三十年年度  
教育実習巡回指導  
反省協議会報告

教育支援委員会委員長  
大瀧 吉夫

東京都同窓会の皆様方には日頃より同窓会の活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

巡回指導員の定年制(七十歳)が来年度から完全実施される為、今年度で終了を迎える七十歳以上の指導員の方々には、永年に渡りご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、今年度も教育実習生巡回指導員反省協議会が十一月一日(土)世田谷キャンパス日体館にて十三時～十五時で実施されました。出席者は巡回指導員二十七名、大学側からは後藤彰教授、本間啓二教授、近藤智靖教授、大塚幹太准教授、計三十一名でした。

高田幸一会長・後藤彰教

授の挨拶、小橋川和子委員の開会のことばで会が開始されました。議題一の実習を終えての巡回指導員からの意見については、私からまとめて報告をさせていただきました。主な意見として、①実習生の力が向上している、②全体的に指導案の書き方が上手になってきている、③保健の授業は上手くなってきている、④実習生からの事前事後、研究授業等によく連絡をくれた、⑤事前指導日に欠席した学生の扱いについて、⑥部活応援の為、事前指導を欠席した学生に対し、大学側からの見解、⑦巡回指導員に対して学生からの評価・当該校からの評価を公表してほしい、⑧実習開始直前の実習生の個人指導の場所を設定してほしい、⑨小学校の教育実習録の指導教師所見をもっと広くして欲しい、また実習校での事前指導の内容も工夫して欲しい、などの報告がありました。

その後の実習生の声を事後アンケート結果から見ると、巡回指導員に係る意見の中から、①丁寧な指導を受けた、②もつと指導を頂きたかった。など感謝の意見が多くあったことも報告いたしました。

その後、四グループに分かれ支援委員の進行により約五十分間グループ討議を行いました。内容は大学側と巡回指導員がチームとして教育実習生を指導する上での確認事項を前提に、各指導員からの大学側への屈託のない意見・質問や大学側からの学生指導における課題等のお話を聞き、互いの共通認識の不足を感じたグループもあったそうです。各グループとも有意義な討議ができ誤解を解消したグループもあったようです。

最後に各グループから討議結果発表がありました。各グループの発表内容は、ほぼ前述の意見が相次ぎました。特に巡回指導員の立

場はどうあるべきかという意見も出されました。

大学側から近藤智靖教授（小学校）・大塚幹太准教授（中学校）・本間啓二教授（高等学校）から総括としての話の中で、大学側から巡回指導員へ実習生の欠席届・連絡報告の周知徹底（公認欠席者も含）を図る旨のお話がありました。支援委員の高橋治憲委員より閉会のことばで会は終了しました。

おわりに、来年度の登録巡回指導員数は二〇名です。東京都の教育実習希望学生は毎年約二五〇名います。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の管理職経験者か教職経験二十五年以上で六十九歳以下の同窓生の方、是非とも後輩の指導として、巡回指導員にご協力お願いいたします。希望される方は都同窓会会長、副会長までご連絡下さい。

# 「全国女性代表者会議 In 青森2018」

報告

都同窓会副会長

小橋川 和子

二〇一八年、暮れも押し迫った十一月三十日、十二月一日の二日間、青森県弘前市で日体大初の試みである、全国同窓の女子代表（全国五十支部）が集う『全国女性代表者会議』が開催された。

小雪も舞う寒い日であったが、情熱あふれる女性集団の会場は熱気に包まれていた。地元青森県同窓会の温かいおもてなしを受け圧巻であった。同窓の殆どは、教職経験者であったが、中には旅館の女将やデザイナー等多岐にわたっていた。

初日は、今村裕常務理事、瀧澤康二全国同窓会会長より挨拶があり、日体大としては初めての会議であるが、議論を深め意義ある会とし

てほしい旨の話があった。

その後、全国同窓会幹事長の塩谷和雄氏から、同窓会本部組織に「女性参加促進部門（二〇一七年度）」が設置されたことを受け、会議の開催にあたつての主旨説明があった。

十月中旬、会議に先立ち大学より、参加者に「今後日体大の女子の同窓として何が出来るとの意見がほしい」とのアンケートの依頼であった。大学からの基本的な考えを掲げる。

【青森宣言の基本的な考え方】

全国の日体大女子同窓生が手と手を取り合い、同窓会の内から外へ意識を向け、日体大らしい取り組みで、大学・地域・社会に対して何が出来るとかを考えたい。また、この取り組みを通して、年代・学部・部活の垣根を超えた同窓生のネットワーク構築を目指し、母校・後輩（現役生）への支援と絆づくりに向けて、団結和協に相応しい内容とし

たい。

これを受けて、会議の中で（青森宣言Ⅱさくら宣言）を採択する狙いがあった。

しかし、会議の冒頭より、意見が交錯し結局、翌日十二月一日午前の会においても意見がまとまらず「さくら宣言」の採択は先延ばしとなった。今後は、全国同窓会本部が中心となり会議で寄せられた意見を集計し分析・考察の上、本学のホームページ等で発信していくこととなった。また、初日の後半の交流親睦会では、出会いと再会に盛り上がり大いに親睦を深めることができた。

さらに、十二月一日（土）午後、第五十六回体育研究発表実演会、青森県大会が、青森県弘前市にて開催され、会議に参加された全国の代表者は、後輩の熱き発表を見学され地元へ戻られた。

代表者会議で話された様々な意見の中に、全国支部の同窓会の抱える共通の課題として、①高齢化・参加者の固定化、②女性の参

加者が少ない、③男性主導の会である、④教員ばかりで構成されているがその意識が希薄である等が挙げられていた。(参考にしてください)

東京都同窓会  
第四回ゴルフ研修会  
ゴルフ研修会に参加して

涌井 清  
昭和四十八年卒

平成三十年十二月二十七日(木)東京都同窓会ゴルフ研修会が開催されました。当日の朝は、この冬一番の冷え込みでしたが、全十九名のメンバーが集い、元氣よくスタートしました。日中になると太陽も顔を出し、誰一人リタイヤすることなく全員が十八ホールを巡ることができました。

今回参加させていただいて印象的だったこと。それは、私(現在六十八歳となります)よりも、一回り以上上の人生の先輩がたがはつらつとゴルフを楽しんでいることでした。やはり日頃からスポーツをやられて



いる方たちは動きも機敏で見た目にも若々しい。やがて私もその年齢に達する日がやってくると思いますが、その時も本日のようにゴルフコンペに参加できる体力を身に付けておきたいと思った次第です。

今回、様々なチャンスに恵まれ私が一位を取ることができましたが、これからも体作りを怠ることなく、末永くゴルフを楽しみたいと思います。皆さんどうもありがとうございました。

平成31年度 日本体育大学東京都同窓会

## 総会・研修会・懇親会のお知らせ

さて、今年も下記のとおり、平成31年度総会(総会・研修会・懇親会)を開催いたします。万障お繰り合わせの上、是非、是非ご参集ください。

1. 期 日：6月22日(土) 午後
2. 会 場：研修会・総会・懇親会、すべて本学世田谷キャンパス

＊ 時程など、詳細は本会ホームページにてご確認ください。

### 編集後記

平成最後となる平成31年も残りわずかとなってまいりました。広報誌「日体魂」も25号を発刊することができました。ご執筆いただいた各位には心より御礼申し上げます。

「日体魂」もホームページも、まだまだ体裁も内容も不十分ですので、これからも、よりよい広報誌、ホームページになるようご協力をお願いいたします。

ホームページをご覧いただくには、アドレスバー(ネットの画面の左上にあります)に  
[www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com](http://www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com) と入力してください。

ご要望など、東京都同窓会ホームページ事務局連絡フォームか、  
[vzk00103@gmail.com](mailto:vzk00103@gmail.com) に直接メールをお送りください。

東京都同窓会 広報委員会委員長 角杉美恵子